

福岡

地域福祉活動職員の

まなこ

地域福祉活動推進のため

No. 63

2009年11月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会

★報告 地域福祉の考え方を再構築する研修会 地域アセスメントへ



▲後半は事前アンケートをもとに4班に分かれ「ソーシャルクオリティを活用した地域アセスメント」をテーマにグループ討議が行われました。

ソーシャルクオリティを
活用した地域アセスメント
つながりの喪失、
社会的排除…
生活世界からの
地域福祉を目指して

本年度の地職連研修事業は、生活世界からの地域福祉論を切り口に、私たちが関わる『地域福祉』をシリーズで考え、再構築する研修として、8月にスタートしています。全7回で、講師に小野達也先生(大阪府立大学准教授)を迎え学習しています。第4回目が10月19日(月)、筑后市総合福祉センターにおいて開催されました。

(報告/香春町社会福祉協議会 建部 正雄)

この日の研修テーマは、「地域アセスメント」。「地域をみる」と言った時、①地域の中の孤立 声なき声をいかに聞くのか、②地域全体の共通の課題を見出す、といった考え方ができます。今回は、②の地域全体の共通の課題をソーシャルクオリティの指標を用い、考えていきました。

つながりの喪失と

社会的排除の登場

戦後の日本社会福祉は貧困問題からスタートしました。当時、多くの国民が貧困状態でした。高度経済成長等を経て日本は豊かになりました。しかし、現代社会には、極めて貧しい人が存在しており、それは社会の在り方によって排除されています。いったいなぜなのでしょう？

2000年の報告では、社会は豊かになり社会福祉も一定程度発展していますが、援護の届かない人々の存在を指摘しています。それは、新たな不平等(格差の発生)、支え合う機能の脆弱化が顕著になる中で、家族 職域 地域といった社会のつながりの喪失がその要因としています。

社会の変化と同時に、私たちの暮らしも変化しました。つまり、個人主義と



なつたのです。結果、助け合いが少ない社会になりました。大きな政府であれば社会制度が充実し生活はしやすいのですが、日本は小さな政府に傾きつつあります。このような状況から制度の谷間に落ちる人が現れるのです。

さらに行政や社会福祉が専門分化したことも、制度の谷間に落ちる人を生みだしているのではないのでしょうか？(自分の範囲の仕事だけをすればよい)もちろん、岡村理論の「社会福祉の固有の視点」からすると、あつてはならないことです。

これらの状況から、問題は社会的排除だと考えることができます。

生活世界とシステムの

相互関係を調査

格差に基づく社会的排除は、システ

ムの動きによって生じています。

生活世界とシステムの関係でいえば、システムの動向に生活世界が翻弄されています。システムに従属するという意味では広義の植民地化の状態です。であれば、この状態を越えていくには、やはり生活世界から声を上げ、実践を生み出すといった生活世界の活性化が必要です。

ただし、その過程で要となるのは、生活世界側から起こった実践がシステムに取り込まれないことです。誰のための地域福祉なのかといった地域福祉の基本的価値を見失ってはいけません。

実践では、単に問題を解決するだけでなく、主体性の発揮が求められます。個人の主体性を実現するためには、生活世界の重要性を具体的にどのように理解するか、生活世界とシステムの配置や相互関係は地域でどのように現れているかを地域診断調査によって把握しなければなりません。

私たちの身の回りで…

生活世界とシステム

そこで、これまでの講義を受け、地域アセスメントに向け、生活世界からの地域福祉の必要性について、我々の身の回りの具体的場面 実例を挙げて考えてみました。

相互扶助 システムの利用 生活世界での具体的場面 事例

① 旧来的な共同体的な仕組みを使う事例
田植えや稲刈りを近所で助け合い、消防団

通夜や葬式の際の近所の助け合い、自治会…

② システム(市場 行政サービス)を使う事例
介護サービス [医療保険等を利用して生活する、人を雇って農作業を行う、消防署やレスキュー…]

③ 生活世界の助け合い(ボランティアや意図的な住民参加)により、ニーズをどのように満たしたか
介護者の会などの当事者の会活動で、互いの悩みを分かち合う
点訳や音訳ボランティアによる視覚障害者支援

生活世界とシステムのかかわりに おいての具体的場面 事例

① 生活世界とシステムのぶつかり合い
障害者自立支援法に係る裁判、原告団と国等の関係。
(父子家庭)施設入所している重度障害の子に面会するために車を所持しているが、そのため生活保護受給ができ

ず、施設の近くの地域に転居せざるをえなかった事例。

② 生活世界からの実践による問題解決(生活世界の影響力によってシステムを変えていった)の経験
ボランティア活動として始まった市政だよりの点訳 音訳活動が、市の事業となった。

手話通訳士国家資格(ボランティアによる働きかけから制度に)

③ 生活世界自体の持っている問題(変えていきたいこと)
内部障害や軽度の精神 知的障害など、見た目では分からない障害であるため、なかなか理解されない。
その地域に昔から住んでいる人と新しく住み始めた人の関係性の問題。

このように、具体的な事例を用いながら、生活世界をイメージしていき、午前の研修が終了しました。

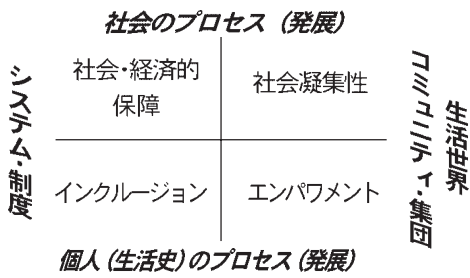
《グループワーク》

ソーシャルクオリティと

地域アセスメント

午後からは、地域福祉のために、システムと生活世界の観点から地域がどのようになっているのかを理解するためのグループワークを行いました。

ソーシャルクオリティの枠組み



出展 Walker, Alan et al. eds. Social Quality2001:352
一部修正

《当日資料より》

ソーシャルクオリティの考え方を地域分析に応用

＜社会 経済的保障＞

＝仕事、商店、病院、行政サービスなどの整備

＜インクルージョン＞

＝社会 経済的なサービスから排除されている人の有無

＜社会凝集性＞

＝地域全体のまとまり具合

＜エンパワメント＞

＝地域の社会的な関係の質（抑圧的－自由など）

生活世界とシステムは、ともに地域生活を送る上で必要です。それがどのように配置されているかを知り、地域を評価し、その上で地域へ働きかけることも重要です。

特に、小さな政府 社会的排除が問題になっている時代に、地域のソーシャルクオリティ(以下、「SQ」)を把握しておくことは重要です。より良い生活のためには、地域のSQを高める必要があります(※まなこ61号参照)。

その場合の地域の範囲(設定)は、生活圏域や小学校区 自治会 自治体レベルだったりします。例えば、個人を対象としてSQを把握しようとする場合は生活圏域での調査が有効ですが、今回は客観的把握のための枠組みをつくるのが目的なので、各自で範囲を設定していきます。

SQの考え方を地域福祉分析に適用するために、4つの領域(上図参照)の指標をつくり、地域調査の枠組みをつくる作業をグループに分かれて行いました。

具体的な作業として、何を調べるかの項目を考えていきました。

地域社会に関わる専門家(実践家として、何を見れば(知れば 調べれば)よいのか、4つの領域でそれぞれ具体的に、項目を挙げていきました。

※本稿では、報告者が属したグループで話し合っ出て出された調査項目を掲載します。

〔社会 経済的保障〕

企業／商店／病院／銀行／保育園／学童保育／公園／介護サービス事業所及び福祉施設の有無／交通の便(バスや電車が地域の中にあるか)

〔インクルージョン〕

不登校者／生活保護申請及び受給者／就学支援を受けている世帯／失業者／母子家庭数

〔社会凝集性〕

サロン(高齢 障害 子育てなど)の実施箇所及び回数／組織(老人会 婦人会 消防団など)の存在／話し合い(種類を問わない)が行われているか／地域で祭りが行われているか／回覧板がまわっているか

〔エンパワメント〕

発言権が無い人がいるか(女性 子ども 高齢者などが地域の中で意見を出す場があるか)／自治会の決めごとに対するおかしさがあるか／困っている人を包み込む雰囲気があるかどうか

これらの項目について、次回までに地域調査することになりました。

最後に

今回の研修は、これまで学んだ理論や考えを基に、地域社会を分析するための準備を行うというものでした。

研修及び報告書の作成を通じて、地域分析について理論的に考える事により、社会のプロセスから排除された個人の主体的な意見を社会福祉固有の視点でシステムや生活世界に投げかけ、理解を求めていくことが重要なのだと気付かされました。

地域福祉の基本的価値を忘れずに、学んだことを今後の実践に結びつけていきたいと思っています。



お知らせ

inふくおか

第4回九州4県社協職員合同研究会議

私は、人と地域と
こんな風に向き合っています

“知る”は楽しみなり 地域を知る
自分を知る名物ワーカーの取り組みを知る

■開催期日■

2010年2月13日(土)～14日(日)

■会場■

福岡市健康づくりセンター等複合施設

■主催■

大分県市町村社協職員連絡協議会
佐賀県市町社会福祉協議会職員連絡協議会
長崎県市町社会福祉協議会連絡協議会
福岡県地域福祉活動職員連絡会

福岡の若手ワーカー

頑張っています!

★自主学習会 交流会

福岡県の若手ワーカー有志では、2、3か月ごとに(不定期)、学習会や交流会等を行っています。

それぞれが課題を持ち寄り、事例検討をしたり、悩んでいることを相談したりしており、本音で語り合う良い場になっています。

11月14日(土)にも福岡市市民福祉プラザを会場に自主研修会を行い、認知症高齢者や発達障害者の事例を元に様々な意見を出し合いました。ゲストに大阪府立大学の小野達也先生にもお越しいただくことができ、内容を深めることができました。

「問題の捉え方を考えさせられる」「思っただけの話ができて楽しい」「他市の社協の情報交換ができて助かる」「知りたいことが知れる」など、メンバーの声です。

さらに、ホームページを開設しており、掲示板での意見交換や自主学習会の日程等も随時紹介しています。もっと多くの仲間と交流したいと考え

ています。皆さんからのお問い合わせもお待ちしております!

★問合せ

筑後市社協 下部(ウフベ)

TEL 52 3969

皆さんからの掲示板への書き込みもお待ちしています!



URL <http://www.geocities.jp/syakyoman2004>

mail syakyoman2004@yahoo.co.jp

編集後記

—編集者のつぶやき—

障害のある子どもを親御さんたちとお話していた時のこと。「きょうだい児」の話題になりました。親は障害のある子どもに時間を取られるもの。その傍らで、きょうだい児は寂しい思いをしているのでは...」

「つい家の手伝いを次女ばかりにお願いしていました。ある時、『私はおねえちゃんじゃないのに、何で私ばかりし

なきやいけないの』と泣き出してしまつて、ハッとしました。すぐに『ごめんね、ごめんね』とずっと抱きしめたことがあります」

「次男に、『お母さんはいつもお兄ちゃんばかりだね』と言われたことがあります。『あなたもとても大切なよ』ということを伝えなければいけないと思いました」

親のつぶやきです。さらに、障害のあるきょうだいを理由に学校でいじめられたり、結婚するときに相手方に難色を示されたり、親亡き後の世話の問題など、「きょうだい」にまつわる悩みがたくさんあります。「きょうだい」の思いにもしっかりと耳を傾けたいものです。(U Y)

★発行者

福岡県地域福祉活動職員連絡会

★事務局

〒839-1321

福岡県うきは市吉井町347-1

うきは市社会福祉協議会内

TEL 0943-76-3977

FAX 0943-76-4329

E-mail f-chishokuren@ukiha-shakyo.or.jp